

## ジオパークにおけるESDフレームワーク Framework for implementing ESD in Geopark

山本 隆太<sup>1\*</sup>  
Ryuta YAMAMOTO<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 早稲田大学教育学部  
<sup>1</sup> School of Education, Waseda University

ジオパークにおける教育は、地域の地質・地形や歴史・文化の学習をベースとしながらいわゆる地域像を得ることや、また地域像をベースとした社会参画を目標として据えることができる。地域像は住民にとって地域への愛着を喚起するイメージであり、また将来の地域社会を考える上で重要な道標である。ジオパークでは、観光を通じた持続可能な地域社会の形成が重視されているが、教育活動もそこに貢献すべく、地域像の獲得と発信を通じた取組みが行われている。とりわけ学校教育は、最近の学習指導要領の改訂を受けて持続可能性の学習 (ESD) へと舵を切りつつある。そこで、本発表ではジオパークにおける ESD 実践のための指標となるべき学習活動の枠組みを提示する。GGN ガイドライン、国立教育政策研究所の ESD 研究、ジオパークの教育実践事例を分析した結果、分析と総合、科学コミュニケーション、つながり、多様なアクター、地域参画、地域学習といった概念や態度が鍵となることが明らかになった。

キーワード: ジオパークの教育, ESD, フレームワーク, 地域学習, つながり  
Keywords: Education in Geopark, ESD, Framework, Local area study, Networking